

工学的な視点からの食料・環境問題の解決

筑波大学・生物資源学類・環境工学コース

〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

(最寄り駅：つくばエクスプレス つくば駅)

<http://www.bres.tsukuba.ac.jp/subject/kankyokougaku.html>

主に、農業土木、農業機械、砂防工学、林産工学、食品工学、コロイド界面工学といった専門分野から構成されている教育・研究コースです。1 学年 30 名程度の学生が学習・研究をしています。工学的な視点から食料や環境問題を解決することを目標とし、生物資源の基盤である水・農地の利用と管理、生態環境の保全と修復、食料資源の循環利用の技術について考え、多様な問題に取り組む研究者・技術者の育成を行っています。

筑波研究学園都市に所在するという地の利を活かして、農業・食品産業技術総合研究機構（農村工学研究部門）と連携大学院の協定を結んでおり、希望する学生は卒業研究の指導を受けられるほか、近隣にある農業土木関連の国立研究機関（国際農林水産業研究センター、農業環境技術研究所、JICA 筑波センター、土木研究所など）では、学生実習などを通して学生と研究者との交流を積極的に行っており、早くから農業土木に関わる研究や研究者のイメージを得ることができます。

英語だけで授業を受けられるコース（グローバル 30）もあり、留学生と共に英語での専門授業を受けることができ、また、ほとんどの研究室に留学生がいて、自然と国際的な視野を身につ

けることができます。また、海外の大学との交流協定も積極的に提携しており、ユタ大学（アメリカ）、カセサート大学（タイ）、ポルドー大学（フランス）、台湾大学などへの留学制度が充実しており、単位の互換制度も整備されています。

学部生は 2 年生までは専門コースに分かれず、生物資源学類生（1 学年 120 名程度）として教養科目や基礎的な科目を学びます。英語や実習の授業単位として「クラス（20 名程度）」があり、クラス担任の教員がそれぞれいて、学生生活や勉強の仕方等について、経験豊かな教員のアドバイスを個別に受けることができます。3 年生から専門コース（環境工学コースのほか、農芸化学、農業経済、農林生物関連のコースがあります）に分かれ、3 年生の後半から学生が希望する専門の研究室に配属され、教員によるマンツーマンの指導のもとで卒業研究を進めることができます。

大学入学前および入学直後のリメディアル教育も盛んで、高校時代に数学や物理をあまり学んでいなかった、あるいは苦手だった入学生を対象に、大学で必要になる基礎的な知識を習得するためのトレーニングを集中的に行っています。トレーニング期間中は、前年度にこれを受けた先輩の学生が入学生 1 人 1 人のチューターとなって、きめ細かく学習をサポートしています。

資格取得：教員免許（理科（中高）・農業）、学芸員、測量士補、自然再生士補など

就職先：農林水産省、農村工学研究部門、土木研究所、都道府県、ゼネコン、コンサルタンツ、水処理メーカーなど